

私の憧が小だった北ア蓮華温泉 ～雪倉岳 86' 3.21～23

メンバー 角田 国彦 佐藤 正春 (記 佐藤 正春)
3月21日(晴) 柵池～蓮華温泉

白馬大池駅より、柵池高原までタクシーの相乗りで入る。朝食後、ゴンドラで一気に入る。柵池まで登る。リフトを一回乗り、ゲレンデを滑るが、ガチガチのアイスバーンで苦勞して林道に滑り下りた。林道に7シールを着けて出発。林道を歩き、成城大ヒッテに7小休止。ここから天狗原へまっすぐ登る事になった。急斜面をキックターンをくり返しながら天狗原の祠の所に7食糧を食べた後、ここから乗鞍岳まで空身に7ツボ足下登る。今日はヘリスキーは飛んでなく乗鞍の斜面は荒されてはいない。リリーフのある所まで登り滑降する。角田氏はこんな良い雪質は初めてだと喜こんでいた。ほんの少し腐れ気味だが、楽しい新雪滑降で天狗原まで滑り下りた。天狗原より振子沢に滑り、最初はクラストした斜面だったが、途中より新雪に変わった。本当に軽い粉雪で、先行パーティのシプール下たいが、荒されてはいるが出来る限りシプールの無い所を滑る。夕いに新雪滑降を楽しんで林道に出た橋を渡るとすぐ蓮華山であった。ロッヂに入り荷物の整理をした後に、私の憧が小だった山のい下湯の温泉に入る。露天風呂で雪が降っているのダイビングをする様を形下僞び止んだ。夜になり、目が痛くなり出して、雪盲になった事を知り、シマツク。ヤラレタという感じがした。明日の雪倉岳が心西己になった。

タイム 林道(1650m) 9:15/9:30 — 成城小屋 10:15/10:30 — 天狗原 11:45/12:30 — 乗鞍山頂 13:30/13:50 — 天狗原 14:00/14:10 — 蓮華温泉 15:30

3月22日(快晴後雲) 蓮華温泉～雪倉岳

今日もやはり雪盲の為に目が痛く、朝食の時など涙ボロボロ流しながら食べる。外に出るとピカ天下雲一つない。今日の快晴を私は敵にまわしてしまった。とりあえず兵馬の平まで滑り下りる。

兵馬の平にツボ足下登り滝見尾根上下小休止する。
角田氏が雪倉岳周辺を詳しく説明してくれるが私にはほとんど見えない。瀬戸川に滑り込み。ツボ足下はもぐってしまうのでシルを着ける。雪倉の滝の右岸斜面を登るが、とにかく暑く、雪盲の涙と汗でゴーグルがすぐ曇ってしまう。漣かされる。

急斜面をキックターンをやりながら登り雪倉の滝上下休む。
角田氏よりここから雪倉岳山頂まで標高差が1000m位あると聞かされた然としてしまう。見えない目下地図を良く見ると確かに1000m位はある。一カ所急斜面がありキックターンは緊張させられた。2200m近くからクラストした斜面になり、シル登行下はすり落ちそうになり怖い。何とかエッジを立ててこまかしながら2300m位まで登るがついに無理。アイゼンを着けたいが安定した場所がなく、キックステップで2400m位まで登る。後から登った角田氏が私が登ったキックステップ下は、もう2~3回降り止まないと安心出来ないと言っていた。革靴とプラ靴の違いである。

時計を見ると14時を過ぎている。もう下山しなければ午後はするとビバークになりかねないが、今度はいつ登れるかわからない私の為にキックスを与えてくれた。G0のサインが出た。雪盲も完全に直り安心して登れる。ここからはアイゼン歩行で登る。滑降りて来るパーティを横目に見ながらまたすらすら登る。最後の200m程の登りはきつかった。私にとっては汗と涙の雪倉岳山頂であった。コンロを出して大休止をする。二人共、急いで滑降りても仕方なく開き直った感じた。16.10分に雪倉岳を後に標高差1300mの滑降り開始だ。私の為に北回り尾根コースを選んできた。

クラストした斜面は、エッジが良く利いてくれればパラレルターンで滑る。右へ左へと滑り、雪倉の滝上の大斜面に出る。ウルトクラストした急斜面下としても滑降りたとしても下午に転ぶと雪倉の滝上まで落ちて行きそうだ。斜滑降りキックターンで慎重に下り雪倉の滝上に出て登ったルートと合流する。瀬戸川に滑降りする。小休止後、滝見尾根上にツボ足下登る。時間とのたたかきである。急いで兵馬の平に滑り下りる。かろうじてセーフという感じで兵馬の平に7時暗くなった。シルを着けてヘッドライトをつけて登り返す。

尾根を回り込み蘆華温泉の灯りが見えた時にはホッとした。本日は12時行動であった。

タイム 蘆華温泉 7:30 — 兵馬の平 8:00/8:15 — 滝見尾根上 8:55 —

9:10 — 瀬戸川 9:15/9:45 — 雪倉滝上 10:30/10:50 — 雪倉山頂
15:20/16:10 — 瀬戸川 17:25/17:40 — 蓮華温泉 19:30

3月23日(風雪) 蓮華温泉～平岩

朝から風が強い。昨日の天気とはまったく違う。予定下は振子沢を登り返して天狗原から山ノ神コースだったが、平岩へエスケープする事になった。出発する頃には雪も降り出し完全に風雪に変わった。沢に滑り込んでバス道路まで登り返す。バス道路に出ると目も開けられない程の風雪である。先行パーティに追いついて一時は40人位の大行列になった。柵平にて小休止して、地図にて角小屋峠を確認した後に登り出す。ツボ足で登るパーティもいるが我々はシルで登行で登りきる。私もこの頃になるとキックターンがたいぶうまくなった見たいだ？ 角小屋峠にてシルを外してウド川に滑り込むが、ゴーグルが風雪の為に曇ってしまい何も見えない。ゴーグルを外して方向だけ決めて滑るが、平行感覚がセロに等しい。自分で滑っているかどうかすら、わからないが、よくも転ぶ時だけは一人前に転んでいた。無事、ウド川に滑り込むと風もたいぶ弱くなってきた。長い斜滑降をやり、林間コースに入り、そろそろ休みたいと思っていたら、良い場所は先行パーティが休んでいて思いは皆同じ。

今日の雪質は粉雪で最高に良く滑る。1300m近くでコンロを出して大休止をする。林間コースを滑りスピードが出ると、コースを少し外して新雪滑降を楽しむ。道路に出て無事に大所まで滑り込んで大所からマイクロにて平岩駅に出るまではメデタシ、メデタシと言いたい所だが今回はそれほど甘くはなかった。

中央本線が雪害の為に不通になってしまい、とりあえず松本に出る。松本にて名古屋から東海道新幹線下東京に帰る予定である。松本を17:30頃の特急に乗り、20:00頃に名古屋に着いて、すぐ新幹線に乗り込み、何とか今日中に東京に帰れると思っただけだったが、まだ甘かった。今度は新幹線が大幅に遅れて名古屋～東京まで何と6時間30分もかかってしまい、東京駅に着いたのが、夜中の2:30頃だった。国電は一晩中動いているが、国電だけでは帰れない人は東京駅でシラフカバーを出してステーションビバークとなった。非常用に持っていたシラフカバーをこんな所で使うとは……。

タイム 蓮華温泉 7:50 — 柵平 9:15/9:35 — 角小屋峠 10:10/10:30
— 1300m 11:00/11:45 — 大所 12:30/12:50 — 平岩駅 13:15

雪倉もの1. ルート図

